濃度の異なる液体が混合したときの発熱に注意		
濃度の異なるプロセス廃液などの液体が混合すると、発熱して思わぬ事故が生じ		
るので注意すること。		
爆発·火災	関連目次·章節	
プロセスから排出する濃度の異なる廃液などの液体が混合すると、希釈熱により		
液温が上昇し、溶解している有機化合物が蒸発や分解、反応を起こすことにより		
爆発火災、プロセストラブルに陥る危険性がある。		
① 作業前に液体中の溶解物とその濃度をチェックし、確認する。		
② 当該液体の混合による危険性を評価し、混合する際の温度管理と冷却等必		
要な対策を講じる。		
新グレードのケトン過酸化物の生産中に出る廃酸と旧グレードの廃酸を混合し		
たところ、廃酸の濃度が違ったため、混合時の希釈熱で温度が上昇し、溶解して		
いた過酸化物が自己分解を起こし爆発した。		
(1998.11 化学工場 福岡県) 出典:失敗知識データベース		
	濃度の異なるプロセス廃液などの液体るので注意すること。 爆発・火災 プロセスから排出する濃度の異なる療液温が上昇し、溶解している有機化を 爆発火災、プロセストラブルに陥る危限 ① 作業前に液体中の溶解物とその源 ② 当該液体の混合による危険性を要な対策を講じる。 新グレードのケトン過酸化物の生産 たところ、廃酸の濃度が違ったため、 いた過酸化物が自己分解を起こし爆発	濃度の異なるプロセス廃液などの液体が混合すると、発熱しるので注意すること。  爆発・火災 関連目次・章節 プロセスから排出する濃度の異なる廃液などの液体が混合液温が上昇し、溶解している有機化合物が蒸発や分解、反爆発火災、プロセストラブルに陥る危険性がある。 ① 作業前に液体中の溶解物とその濃度をチェックし、確認で、当該液体の混合による危険性を評価し、混合する際の要な対策を講じる。  新グレードのケトン過酸化物の生産中に出る廃酸と旧グしたところ、廃酸の濃度が違ったため、混合時の希釈熱で温度いた過酸化物が自己分解を起こし爆発した。